



よこと館だより



Est. 1912

発行：至誠学舎立川 編集：法人事務局

理事長閑話 埋め草 53

～^{ぎんもくせい}銀木犀は残った～

至誠老人ホームの最初の建物があった障害総合福祉施設建設予定地の思い出です。1951（昭和 26）年に開設した定員 32 名の至誠老人ホームは、戦時中からの木造建物、少年寮を利用した建物でした。その後 2 回の増築があり 10 年後には定員も倍になっていました。その頃の大きな心配事は何といっても火災です。当時かまどの煙突の過熱で天井裏のボヤもあつたりしました。戦時中建てられた古い木造建築、防火設備も貧弱で火が付けばいっぺんで燃えてしまうような建物だったのです。

1955（昭和 30）年、横浜市にある老人ホーム「聖母の園」で大火災があり、入居者 143 人のうち 95 人と職員等 4 名の 99 人が焼死という大惨事が起りました。建物は旧海軍関係施設の払い下げ建物、2 階建ての古い木造建築だったのです。この火災がキッカケとなり、以後至誠ホームの新築建物はブロック造の耐火建築となりました。しかし当時本館と呼ばれていた古い木造建物の不燃化は大きな課題になって残っていました。その建物が昭和 40 年、念願の鉄筋コンクリート造り 2 階建て建物に改築になったのです。

当時の写真を見ると玄関わきに「銀木犀」が植えられています。新しい希望の建物への感慨を込めて当時の故橋本良市ホーム長によって植えられた銀木犀です。不思議なことに毎年 9 月 15 日の敬老の日前後に開花、穏やかで控えめ、それでいてしっかりと甘い香りで皆の喜びを表現し続けてくれていたのです。

今回その建物は取り壊しとなりましたが、その銀木犀は何とか残したいと願い、ホーム中央のお庭、ケヤキ広場に移植をしました。根付くか心配をしていましたが、元気に新しい場所で今年も控えめに花を咲かせ、その甘い香りを楽しませてくれました。

場所は変わっても銀木犀は残ってこれからも至誠ホームの高齢者事業を見守ってくれていくことでしょう、幾歳月も。

今年も花を咲かせてくれました



ケヤキ広場に移植されたギンモクセイ



事業本部長メッセージ

今年も余すところあと二か月。年々、一年が短くなっていく気がする。いや、確実に短くなっている。自分の生きてきた時間との相関で相対的に短くなる説、自身の能力が低下して処理に必要な時間が増えるので結果として時間経過を早く感じる説など諸説ある。

時間と速度と距離の関係において、速度が高速になれば時間ですら伸び縮みするというのが、アインシュタイン先生の言う相対性理論である。同じ一秒でも速度によって長さが違うということだ。難しいことはわからないが、朝の 10 分はお勉強の 10 分より明らかに短いし、難しい会議の 2 時間より宴会の 2 時間の早いこと。これを「感覚的相対性理論」と勝手に呼んでいる。

日野橋が通行止めになって、迂回を余儀なくされ 15 分の通勤時間が倍になった。なんでも橋は架け替えて、期間は 3 年ほどかかるそうだ。毎朝 15 分×3 年かあ!!先が長いなあ、しかし案外出来上がればあつという間なのかもしれないなあ・・・

（高齢事業本部長 旭 博之）

事業本部情報

㊦児童事業本部㊦

昨年起きた目黒区の児童虐待死事件において、加害者である父親に懲役 13 年の判決が下されました裁判で明らかになった被害者の結愛さんが亡くなるまでの虐待の経緯を知るにつれ、やりきれない思いに胸が苦しくなりました。親の手により心や体を傷つけられ、命をも奪われてしまう子どもは一向に後を絶ちません。児童相談所への虐待の相談件数は年々増加しており、施設には毎日のように一時保護や入所依頼の電話がかかってくる。少子社会でありながらこの現状は異常な事態です。

とかく虐待の問題が事件化すると子どもが被害者、親が加害者と単純に分けられ、罪状や判決の内容に議論が集まります。また、命を救えなかった要因として児童相談所や学校、警察といった公の機関の対応に非難が集中しがちです。確かに必要な議論ではありますが、今最も必要なことはもっと広く社会に「虐待とは何か？」を知ってもらうことのように思います。そして現状の虐待防止における制度・政策において何が足りず何が必要なのかを、国民レベルで考えるところまでいかなければ虐待防止に大きな前進は無いと考えます。

11月には「児童虐待防止推進月間」です。福祉に従事する我々ひとり一人が、この「虐待」という問題に向き合い、考え、発信する機会にできればと考えます。
(至誠大地の家 園長 石田昌久)

㊦保育事業本部㊦

9月末から11月の初めまで15人制ラグビーの世界大会が日本で開催されました。モンテッソーリ教育法には地球儀や世界地図などの活動(お仕事)があります。この地球儀は陸地はきらきらする粉末で、海は濃い青色で表現したものです。「アメリカについて漠然と話されるのを聞くだけでなく、アメリカ大陸が描かれている地球儀を見ることによって、子どもは具体的に自分の想像力を伸ばせるでしょう。」(マリア・モンテッソーリ『子どもの精神』より)。マリア・モンテッソーリは子どもがどこまで想像できるのかを確かめるために6歳の子ども達を対象に「地球すなわち世界を提示する試み」をしました。地球儀を前にあれこれ話していた母親から、3歳半の子どもが、この地球儀で「世界がわかった」と言ったというエピソードを紹介しています。子どもの想像力は素晴らしく、実際には見えないものも見る事ができるのです。

大会にあわせて世界の国旗を目にしたり、国名や国歌を耳にしたりする機会が多くありました。至誠ひの宿保育園では大会前、ラグビーの道具を揃えました。来年2月に行われる日野市の保育祭りでは年長児がラグビーをテーマに舞台発表をする予定です。園児や職員が世界を身近に感じる機会になったらよいと思い、JAPANのコーチや主将らのサインなどを園内に掲示しました。私はニュージーランド国家の旋律とナミビアの場所を覚えた程度ですが、今大会で想像力を刺激された子どもたちが世界中に沢山いることでしょう。

(至誠ひの宿保育園 園長 高橋滋孝)

㊦高齢事業本部至誠ホーム㊦

平成31年4月に新規開設した至誠ホームオンニの職員は、異動者10名、新卒者2名、新採用者34名でスタートし、半年が過ぎました。ホームは立川駅・柴崎体育館駅から徒歩10分ほどの閑静な住宅街にあります。特養は3ユニットがオープン、立川市で初めての看護小規模多機能は6月から利用がスタートし着実に利用者が伸びています。行事では、7月28日順延した昭和記念公園での花火大会を屋上から観覧。8月24日「諏訪祭り」では地元錦東和会の山車にきていただきお囃子を堪能。9月9日には1階の地域交流スペースに「幸せ観音」を建立し、光西寺ご住職による開眼法要をとり行いました。9月14日の長寿を祝う会には8割近くのご家族がお見えになりお祝いとその後の家族懇談会で意見交換。10月5日オンニまつりでは、模擬店、イベントの楽器演奏やよさこい踊り、第七小学校児童に描いていただいた壁画前での記念撮影など地域の方々と共に和気あいあいと楽しい時間を過ごしました。

これからもご利用者、ご家族、地域の皆様と共に思いやりと幸せあふれるホームを目指してまいります。

(至誠ホームオンニ 園長 河合晴夫)

本部事務局だより

今年は台風の当たり年なのか？関東地方を中心に東日本は台風の甚大な被害を受けている。特に15号が甚大な被害をもたらしたその傷が癒えないうちに、19号が追い打ちをかけた。台風の発生数そのものは10月現在で21個と平年とほぼ同じで、特段多いわけではないが、上陸数は5個と平年の2倍のようである。我が家においても、15号の時に風で植木鉢が2個壊れた経験から19号接近にあたっては、万全の風対策で臨んだ。しかし実際には風より雨である。尋常ではない雨の為、我が家のそばを流れる南浅川は増水し、氾濫まであと1mまで迫られた。携帯の緊急通報が鳴り響き、防災無線からは避難指示が放送され、慌てて避難所をネット調べ直したりした。ご近所とも電話で連絡を取り合っ、いざ避難所へ行くかと相談したが、誰も行くとはしない。どうも正常性バイアス(都合の悪い情報を無視したり、「自分は大丈夫」「今回は大丈夫」「まだ大丈夫」などと過小評価する心理状態)が働いているようである。幸い、川は氾濫を免れ、我が家の被害はなかったが、この次に台風の直撃を受けるときには、風対策に加え雨対策として土嚢をあらかじめ準備し、早めに避難することとしよう。忘れなければの話だが。

(法人事務局長 野島忠幸)

(編集後記)あつという間に秋が深まって来たかと思ったら、コートが恋しい季節となってしまいました。霜が張ったとか…テレビから流れてきた天気予報を聞いただけで、身震いが…(雲)